



国民の森林・国有林

中部森林管理局

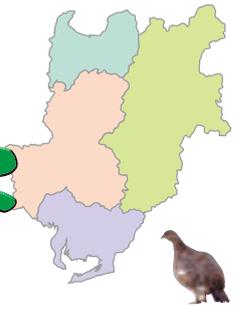
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



市議会議員研修会で説明する前原飛騨署長



熱心に質疑をする市議会議員



説明する飛騨署職員

市議会議員研修会において

美しい森林づくり推進国民運動をPR

(P4に関連記事)

主な項目	○平成20年度 中部森林管理局事業概要を公表 P 2～3
	○地域・ボランティアとの連携 P 4～5
	○動植物の保護・管理 P 6



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成二十年度 中部森林管理局事業概要を公表 「美しい森林づくり」を目指して

四月二十三日、平成二十年度中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行い公表しました。

事業概要の要旨

中部森林管理局は、公益的機能の維持増進を旨とする国有林野の管理経営を基本方針として、開かれた国民の森林の実現に向けた取組を推進しているところである。

平成二十年度については、特に、「美しい森林づくり」に向けて民有林施策との一層の連携を図りつつ、地球温暖化防止対策としての間伐の推進等多様で活力ある森林の整備や生物多様性の保全をはじめとする要請に応えるべく、具体的には以下の項目などを中心に事業を実施していきます。

一 地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策の推進

(一) 背景

京都議定書で我が国が約束した六割の温室効果ガスの削減目標のうち、二・八割(千三百万炭素ト)を森林吸収量で確保することとなっているところである。これを達成するためには、平成十九年から



間伐の推進 (列状間伐実施箇所)

二十四年の六年間に、全国で毎年二十万杉の追加的な森林整備が必要となります。

(二) 取組

森林吸収目標達成に向け、国有林が率先して計画的かつ適切に森林を整備します。

①第一約束期間(平成二十～二十四年)の初年度となる二十年度は、間伐等約一万二千杉の森林整備を実施。(対前年度百二十割を計画)

②二十一年度以降も進行管理を徹底し、森林吸収目標の達成に向け計画的に森林を整備。

二 安全・安心な暮らしの確保に向けた治山事業の推進

(一) 背景

近年、局地的な豪雨の頻発により、大規模な深層崩壊やこれに起因する土石流などによる人的被害を伴う激甚な山地災害が頻発しており、今後も大規模な山地災害が発生する危険性は引き続き高い状況となっています。

(二) 取組

管内は、脊梁山脈や重要な水源地を擁し、山地災害の防止や下流域への良質な水の供給が国有林の重要な使命。安全・安心な暮らしを確保するため、災害の早期復旧、計画的かつ効果的な治山対策を展開します。

①特定流域総合治山事業(新規二箇所・継続三箇所)等により、国有林と民有林が連携して、流域全体を一体的にとらえた対策を実施。

②間伐材を使用した残存型枠や現地発生材を有効利用した大転石護岸工などの親自然型工法の積極的な採用により、環境・景観に配慮。また、魚類等の生息状況と治山施設による影響を調査し、溪流生態系に配慮した治山事業を実施。

③地域住民等を対象とした現地見学会を開催(全署等に拡充)し、治山事業についての理解を深めるとともに地域の要請を把握し計画に反映。



木材使用による土留工等の実施

三 保護林等の適切な管理の推進

(一) 背景

中部局管内には、希少な野生動物の生息地・生育地等の優れた自然環境を有する森林が多く分布し、これまでも保護林や緑の回廊を設定し保護に努めてきました。

また、南信地域において顕在化しているニホンジカ等鳥獣被害に対しては、平成十九年九月に設立された「南アルプス食害対策協議会」に南信森林管理者が参画するとともに、同署職員がニホンジカの捕獲ワナを設置し、猟友会と連携して捕獲を実施しています。

(二) 取組

貴重な森林生態系等を国民共通の財産として適切に維持・保存するため、希少動植物の生息地・生育地の保護等を一層推進します。



高山植物復元対策の実施

①ニホンジカによる高山植物の被害対策として、南アルプス仙丈ヶ岳において約〇・八畝の防護柵を環境省・地元自治体との連携により設置。

②管内全ての緑の回廊（四箇所、四万畝）において、野生動植物の生息・生育状況を把握するモニタリング調査を引き続き実施。

③ヤツガタケトウヒ等の群落保護のため五箇所（五六〇畝）の保護林を新設（伊那市・富士見町）。また、保護林機能評価のための調査を新たに実施。

④ライチョウ等の希少野生動植物の生息調査及び巡視を引き続き実施。

⑤双六池や木曾駒ヶ岳等におけるヤシ繊維マット敷設による植生復元対策、グリーンロープの設置や保護巡視活動等を引き続き実施。

四 その他

(一) 低コスト・高効率作業システムの普及・啓発

簡易で崩れにくい作業路の整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・啓発を率先し、トータルコストの縮減による森林整備の促進、安定した木材供給に取り組みます。

①素材生産事業を行う十署等において、現地にあつた作業システム及び路網の開設を試行（十九年度・三署から拡充）。また、民有林関係者とも連携して現地検討会を実施。



低コスト・高効率作業システム現地検討会

②二十一年度からの全署での本格的な展開に向け、効果的な普及と線形設定等を行う指導者や技術指導が可能なオペレーター育成を引き続き実施。

(二) 国民の森林としての取組

森林環境教育の充実、双方向の情報の受発信など開かれた「国民の森林」の実現に向け、以下の取組を行います。

①新たに「親子の自然体験教室」を開催。

②「ふれあいの森」を、NPO等が行う自主的な森林整備活動等のフィールドとして引き続き提供。

③都市住民が行う森林とのふれあいや森林づくり、自然環境の保全等の森林ボランティア活動を支援。

④一般公募した市民による国有林モニター会議等を通じ、国有林への要請を把握し管理経営に反映する対話型の取組を引き続き実施。



森林イベントの開催

(三) 地域振興への寄与

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森林として整備するとともに、地域の産業振興等に必要用地の活用等を推進します。

①魅力ある「レクリエーションの森」の整備に向けて、民間活力を活かした施設の整備やNPO等と連携した活動プログラムの提供などソフト対策の充実などに取り組み。

②宿舍等の敷地について、事業遂行上不可欠なものを除き可能な限り地域の産業振興等に活用。

なお、平成二十年度中部森林管理局事業概要については、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。

URL

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



記者発表の様子

地域・ボランティアとの連携

◆国有林の取組を紹介

高山市議会議員が森林・林業の研修会へ



クリアホルダを手にして、島田高山市議会議員（中央）と前原署長・署職員

「飛騨署」当署では民有林と連携し地域要望に応える取組を推進していますが、今般、高山市議会議員全員で組織する森林・林業・林産業活性化促進議員連盟の研修会として、飛騨地域における国有林の取組事例を勉強したいとの要請を受け、当署で中部森林管理局技術交流発表会で平成十八年度に発表した「地域と連携した環境教育・環境保全の取組」及び「平成十九年度に発表した「飛騨でもできたを」を目指し 民有林・国有林が連携した低コスト作業の取組」について、四月二十一日に紹介しました。

川町出身の市議が山中山国有林で取り組んでいる低コスト作業に関心を持ち、さらに川本尾神森林官の発表内容を見て議員連盟として勉強会をしたいといった意向から実施に至ったもので、環境教育・環境保全活動の取組をあわせ紹介したものです。

当日は、島田議長（会長）を始め議員三十六人全員が出席されるなど、議会側の熱意が伝わる会場において、当署職員の外、市農政関係者、中日照林賞を受賞した野中長次氏など約五十名が参加する中、川本尾神森林官、大西ふれあい係長が事例を紹介しました。また、冒頭、前原署長から「美しい森林づくり推進国民運動」について、今回、当署で美しい森づくり運動の一環で作成したクリアホルダーを紹介しつつ説明しました。

発表後の意見交換では「国、県、市が連携して取り組まれていることが良く分かった」、「林業の活性化で地域の振興が大切」などの意見が出されたほか、後日、出席議員から「地球温暖化対策の中で特に重要な森林のあり方として国有林野事業の方向性が勉強になった」とお礼の手紙が届くなど、発表成果を出発点とし取組を普及するという実践ができ「飛騨でもできた」の一つとなりました。

当署では今後も地域との連携、民有林との連携を大切に、地域から「国有林があつてよかつた」と評価されるよう取り組んでいく考えです。

地域と連携した山火事防御訓練

「飛騨署」四月六日、飛騨署では春の火災予防運動の一環として、高山市消防本部及び丹生川消防団と合同で高山市郊外の小木曾谷林道沿線でジェットシューターを使用した山火事防御訓練を実施しました。

この林道沿線は、溪流釣りや山菜採りが多く、山火事防御訓練に適したエリアであり、高山市消防本部の指揮の下、約八十名の参加者が給水班と消火班に分かれ、実践的な訓練を行いました。

当署では、高山市消防本部の要請に応じてジェットシューター二〇セットを貸し出すと共に森林官等五名が消火班として参加しました。この訓練に参加した当署職員及び地元消防団員の中には初めての作業者もあり、ジェットシューターが初期消火と残り火消火に適していることを認識したとの報告がありました。

今回の山火事防御訓練は、林道沿いの溪流からポンプ車で給水ホースを繋ぐなど素早い対応が出来たものの、実際の山火事では給水に時間を要することが予想されることから、飛騨署では今後もジェットシューターを使用した消火訓練に積極的に参加しつつ、山火事防止運動及び啓発活動にも重点を置き、国有林野の適切な管理とPRに努めていく考えです。

自然休養林内の枯損木をボランティア団体が伐倒処理

「愛知所」四月二十二日、ボランティア団体である名古屋シティ・フォレストクラブ（略称：NCFC）が、定光寺自然休養林内（瀬戸国有林）を通る東海自然歩道の周辺に立ち枯れとなっているアカマツなどの枯損木を伐倒処理しました。

愛知森林管理事務所では、四季を通じて散策、オリエンテーリング活動の場として多くの人に利用されている東海自然歩道沿線の国有林が、アカマツの衰退した針広混交林となっており枯損木も多く見られることから、「見て触れて楽しめる明るい林内整備」を目指し、散策者への安全確保を含めた景観整備を進めています。このような取組の中、NCFCから枯損木の伐倒作業を体験メニューに加えたという申し入れがあり、実施に当たっては特殊な技術を要することから十分な検討を行うとともに当所技術指導者立ち会いのもと実施しました。

初夏を思わせる陽気となった当日は、NCFC会員の伐木造材作業技術者精鋭四名により、入念な安全作業の打ち合わせを行い、主に遊歩道



合同消火訓練に参加した森林官等

初夏を思わせる陽気となった当日は、NCFC会員の伐木造材作業技術者精鋭四名により、入念な安全作業の打ち合わせを行い、主に遊歩道



枯損木を処理するボランティア

沿いで入込者への危険が想定されている枯損木およそ四〇本を伐倒処理しました。

一日の作業を無事終えた会員は「こんなに緊張した作業は、近年希だ。本当に疲れた」と安堵した笑顔を見せながらも、多くの人たちが利用する休養林を安心・安全な場として維持することはもとより今後も景観整備に取り組んでいく意気込みを新たにしました。

「協働して

金華山の保全と利用を」

〔岐阜署〕四月二十三日、岐阜森林事務所において、金華山を拠点にボランティアによる保全活動に取り組んでいる「十時会」、「金華山サポーターズ」の二団体、岐阜市、当署の約三十名で意見交換会を開催しました。

最初にこれまでの活動報告を行った後、意見交換に移り、ボランティア団体の会員から「不要な看板を撤去して欲しい」、「外国人の入山者が増加しているた

め、外国語の案内看板が必要」、「今後も継続して総合的な保全事業を行って欲しい」等、様々な意見や提案が出されました。その中でも、「登山道のひとつである馬の背登山道の荒廃が目立ち、周囲の植物に影響を与えているのが心配なので早急な対策が必要」との意見に対して参加者一人一人の金華山への思いが活発な議論へと繋がり、今後の金華山の保全と利用のために各団体、機関が協働して取り組んでいく意思統一を図ることができました。



ボランティア団体との意見交換会の様子

朝倉川530大会ゴミゼロに参加

〔愛知所〕豊橋国有林を源流とし、豊橋市を流れる朝倉川をきれいにしようとして、第十二回 朝倉川530大会が四月十九日開催され、当所より五名が参加しました。

主催者を代表してNPO法人朝倉川育水フォーラム代表から挨拶の後、朝倉川全域にわたり地元の児童、生徒、住



清掃する参加した職員

民や企業、行政機関のボランティア約二千二百人が集まり清掃を始めました。

当日は、前日までの激しい雨も止み晴天となりましたが、国有林周辺の県道付近には、食べ残しのゴミや電化製品が不法投棄されており、水分を含んで重くなったゴミなどを地元の方と協力しながら一つ一つ分別し片付けていきました。

主催者は「530大会の回を重ねるごとにゴミが少なくなってきたが、今後も活動を続けたい」と話しており、当所としても積極的に参加協力したいと考えます。

地域ボランティアと協働で

防風保安林の整備

〔富山署〕木々の若葉が芽吹き始めた四月十九日、富山市稲代の大沢野国有林で、地域の里山再生に取り組んでいる「きんたろう倶楽部」の会員約四十名が参加して、スギ造林地に侵入してきたモ

ウソウチクの除去作業を行いました。当国有林は神通川から吹き上げてくる強風から家屋や田畑を守るための防風保安林になっていますが、周辺の竹林からモウソウチクが入り込み、スギ造林木の生長を妨げていることから昨年引き続き除去作業を行いました。作業前に横井神通森林官が国有林の概要や安全作業についての注意点を説明した後、伐採・運搬、チップ担当の各班に分かれて作業に取りかかりましたが、昨年の参加者からは「もうこんなに増えたのか」とタケの再生力に驚いていました。

「きんたろう倶楽部」は富山市を中心に竹林等の整備を数多く行っていることからベテランの会員も多く、今回は、自走式チップパー機二台が作業に加わり、伐採したモウソウチクを林内に集積することなくチップ化して散布しました。会員の手際よい作業によって、スギ林の中も見違えるほどすっきりと整備され、心地よい汗をかいた会員からは「やりがいがあったな」、「チップを何かに活用できないか」との声も聞かれ、来年の再会を約束し作業を終えました。



モウソウチクの除去作業

動植物の保護・管理

ニホンジカ等有害獣捕獲実施に向けた体制整備

有害獣捕獲チーム設置会議を開催

〔南信署〕当署では、平成二十年度における有害獣対策の新たな取組として、森林事務所に勤務する職員で構成する「有害獣捕獲チーム」を設置し、四月二十三日に関係者を集めた設置会議を開催しました。

この会議は、今年二月十八日から三月二十一日までの間に、諏訪南、伊那里、大鹿の三事務所でモデル的に実施した職員によるニホンジカのワナ捕獲の結果を踏まえ、今後の有害獣捕獲実施に向けた体制整備を図るために設置したものです。

モデル実施の結果は、ニホンジカのオス七頭、メス十九頭（うち十四頭が妊



有害獣捕獲チーム設置会議の様子

娠）の合計二十六頭を捕獲し成果を上げることができました。また、この取組では、ニホンジカの個体数調整のほかにも、職員がワナによる有害獣の捕獲の知識、技術を習得できたことや、地域で深刻化している有害獣問題に国有林として地域と連携・協力できたこと、更には、その取組内容がマスコミ等を通じて広くPRされたことで、地域が抱える有害獣問題を関係者や一般に浸透させるなど大きな成果を上げることができました。

一方、今後に向けた課題としては、ワナの設置から点検、見回り、捕獲後の個体調査や残渣処理などの実行体制の整備をはじめ、従事者への指導・教育、更には、関係機関と連携した止めさしの実施や、捕獲したシカの食材や飼料への利用などがあり、今回、これら課題の解決策の一つとして、管内の森林事務所を地方事務所の管轄区域の三地区に分け、各地区内の森林事務所の相互の応援・協力体制を構築し、許可申請からワナの設置、残渣処理までの一連の作業を効率的に進めることとしました。

設置会議では、署長あいさつの後、昨年度のワナ捕獲の実施結果の報告と有害獣捕獲チームの設置の趣旨や実施フロー等について説明。会議後には地区リーダーである首席森林官を中心に地区別打合せを行い、今後、地区毎に具体的な捕獲計画を作成し、捕獲目標達成に向けて取り組んでいくことを確認しました。

職員によるワナ捕獲の本格実施に向けては、このほかにも止めさしの実施など多くの課題がありますが、今後も引き続き地域の関係者等と連携しつつ、南信森林管理署として効果的な有害獣対策に取り組むこととしています。

四ヶ国語パンフレットによる高山の動植物保護の啓発

〔中信署〕当署管内には、上高地、乗鞍、白馬、美ヶ原高原等日本を代表する山岳景勝地が所在し、年間約三百万人が訪れる国内有数の山岳観光地となっています。このことから、登山シーズンには、職員や臨時保護巡視員がライチョウや高山蝶、コマクサなど貴重な高山動植物の保護巡視活動に取り組んできました。この結果、登山者のマナーも向上し、一部マニアによる確信的な盗採を

除けば、軽い気持ちでの踏み荒らしやゴミ捨ては大部分減ってきています。ところが、近年、アジア近隣諸国の目覚ましい経済発展に伴い日本の豊かな自然環境や山岳美を求めて北アルプスの山岳地域を訪れる海外の登山者、特に韓国、中国の登山者が増加しています。

このため、現地で保全啓発活動に当たる森林官や臨時保護巡視員は、高山の動植物に対する保護意識の違いや言葉が通じないなどから、立ち入り禁止のグリーンロープの意味や指定外地でのキャン

プ、ゴミ等の持ち帰りに関しての指導、啓発に苦慮していました。こうしたことから、海外の登山者に対する指導に役立つパンフレットの必要性が生じ、特に注意すべき五項目を職員自らイラスト化した四ヶ国語添書きのパンフレットを作成しました。このパンフレットは、職員や臨時保護巡視員がパトロールに使用することはもとより、各自自治体や山小屋、登山案内人組合や観光案内所、運輸機関等、地域関係者の協力を得て頒布することとしています。現地で指導する場合は、言葉は通じないまでもパンフレットを配布することにより、日本における貴重な動植物保護の決まりや山岳マナーを伝えることができます。



作成した四ヶ国語パンフレット

また、裏面には、北アルプスの山々の鳥瞰図を掲載していることから、日本の北アルプス登山の思い出となり、家族の皆さんにも日本の登山マナーを伝えることが期待されます。

各地からのたより

伝統の早春の小鳥の巣箱掛け

長野市戸隠中学校

【北信署】四月二十日、長野市戸隠中学校二年生三十人が、残雪がある戸隠森林植物園で、愛鳥週間を前に小鳥の巣箱掛けを行いました。

同校の小鳥の巣箱掛けは、「鳥に関心を持ち、鳥類の生態について学ぶ」、「自然に親しみながら自然や動植物の保護への理解を深める」ことを目的に、昭和四十八年から行っており、今年で三十五回目を迎える伝統行事となっています。

生徒たちは、当署職員の指導を受けながら、前日に自作した巣箱を、自分で選んだ木に針金で固定していきました。

同園は、野鳥の宝庫としても全国的に有名で、百種以上が観察されています。今回設置された巣箱でも、シジュウカラ等が繁殖を行い、来園者を喜ばせてくれることでしょう。



自作の巣箱を取り付ける生徒

巣箱掛けを終えた生徒は、「私の巣箱にどんな小鳥が入ってくれるかな」、「木の葉が茂る頃に自然観察に来ます」と、また訪れることを語り合いながら、同園を後にしました。

「パノラマ展望台周辺の整備とツツジを植栽しよう」

(第一回名古屋CF事業)

【名古屋事務所】四月十九日、八曾国有林において第一回名古屋シティ・フォレスト事業を行いました。

今回の事業は、飛騨木曾川国定公園に指定されている犬山・八曾自然休養林内の八曾地区で、三百六十度の見晴らしを誇るパノラマ展望台周辺にツツジの植栽と歩道整備を行ったものです。

当日は、四十名が参加し、亀割駐車場ゲートから酒向尾張森林官の軽妙な案内により心と体をほぐしながら三十分程歩



ツツジを植える参加者

いて現地へ移動。体が暖まった頃、昨年十周年を迎えたCF事業記念植樹として隊員代表数名と小林名古屋事務所長がヤマザクラを植えました。

午前の作業は、展望台周辺にツツジを五百本植栽し、午後は展望台周りの浸食された歩道に階段を設けるなどの整備を行いました。

爽やかな風の中、隊員は汗をかき、手に豆をつくりながらも完成した歩道に満足げな笑みがこぼれていました。

アメリモマケズ植樹体験

【東濃署】四月二十四日、上村恵那国有林にて名古屋シティ・フォレスト事業

(第二回)を開催、次代検定林の設定箇所へヒノキの植樹を行いました。

東濃署では昨年より次代検定林の設定について林木育種センターと打合せを行い、近年機会が減少している植樹作業の体験と、次代検定林を広く知ってもらう良い機会でもあることから、名古屋シティ・フォレスト事業にて行うこととして準備を進めてきました。

前日は、林木育種センター職員と共に晴天の中で事前準備を行い、当日も晴天と思いきや、あいにくの雨天となり最悪の事態も考えましたが、雨にもかかわらず集まっていたいたいた十七名の隊員により植樹作業を実施しました。参加した隊員は合羽を羽織りながらも



作業の後での記念写真

唐鍬を使って、当初予定していた三分の一、二四〇本の苗木を丁寧に植樹しました。

昼には休憩小屋で食事をとり、普段入ることのない山小屋の様子や薪ストーブに興味を示す隊員の姿も見られました。

参加者からは「雨だったが楽しかった。苗の生長が楽しんだ」、「検定林の植樹という有意義な作業に参加できて良かった」などの感想も聞かれました。

当署では、今後も手入れをしつかりと行っていきたくと考えています。

定光寺自然休養林で新緑を満喫 (みどりのフェスティバル08)

【名古屋事務所】四月二十九日、名古屋事務所、愛知森林管理事務所、瀬戸市まつとミュージアム・観光協会主催による「みどりのフェスティバル08」を、瀬戸国有林の森林交流館で開催しまし



モリゾー・キッコロと記念写真

た。

当日は、連休前半で快晴の絶好のイベント日和となったことから、大勢の方が来場されました。十時の開場前から、ミツバツツジの植樹や竹炭のプレゼントの受付前には、長蛇の列ができました。会場には、植樹、丸太伐り、ネイチャークラフト、火おこしの体験コーナー。森林インストラクター案内による森林散策と勉強会、森林のクイズの学習コーナー。協賛団体等による展示コーナーが設けられ、終日どのコーナーも大賑わいとなりました。

アトラクションでは、モリゾー・キッコロが森林から登場し、子供たちと一緒に植樹しました。その様子を写真撮影し、その場でプリントし無料で提供しました。また、森林の紙芝居や犬山市のオカリナ同好会「ポップス」による演奏、川合ケンさんによる国産間伐材で作られた楽器「ミンミン」の演奏会が開かれ、さわやかな風の中、来場者も一体となったアトラクションとなりました。

今後とも、地域の皆さんに気軽に自然とふれあっていたく場を提供していきたいと思えます。

第十八回 「つけち森林の市」開催

【東濃署】五月三日から五日までの三日間、中津川市付知町にある「道の駅花街道付知」において「つけち森林の市」が開催され、東濃署からも職員が参加しました。

このイベントは今回で十八回を数え、森林や木のPRを目的に地元商工会や木材業者などが参加する行事として毎年開催されており、ゴールデンウィーク中ということもあり、多くの家族連れが訪れ、大変にぎやかなイベントとなりました。

今年は昨年引き続き、ふれあいの森や治山事業など、当署が行っている事業についてクイズ形式のパネルを作成し、間違えた参加者には職員が丁寧に説明を行い、答えが分かると満足そうな表情を



上手に出来たよ



鋸を握って丸太切り

見せていました。

また、恒例となった木工クラフト教室は大変な人気で、様々な大きさにカットされた木片や木の実をホットボンドで貼り合わせ、友達や親子で協力しながら想像力豊かな作品を完成させていました。

春のイベントで賑わう

【名古屋事務所】五月三～五日の三日間、名古屋栄の久屋大通公園において、中日新聞社主催による「ふるさと農林水産フェア・春」が開催されました。好天に恵まれたゴールデンウィーク中であつたことから、多くの家族連れが訪れました。

名古屋事務所は、森林の働き等のパネル展示の他、森林ボランティア団体の「中日森友隊」と連携し、ヒノキの間伐材を利用した丸太切り体験を実施しました。初めて鋸を握る人が殆どでしたが、親子で力を合わせて五センチ位に切った丸

太にドリルで穴をあけて鉛筆立てを完成させました。三日間とも順番待ちの行列ができるほど大勢の人で賑わいました。

また、五月十一日には、愛知県大府市にある「ウッドビレッジ健康木の住まい」において、「ウッドビレッジ・春」のイベントが開催され、このイベントにも名古屋事務所から、木とのふれあい、木の良さを感じてもらおうと、環境と木に関するパネル展示や、子どもを中心に丸太切り体験を実施し、木の良さや国産材についてPRしました。会場には、これから家を建てようと考えている家族連れなどが訪れました。

板取川治山事業所が開所

【岐阜署】関市板取中切地区において、板取川治山事業所の庁舎新築工事が完成しました。事業所は床面積六十五平方メートル、木造平屋建てです。

四月四日には、岐阜県をはじめ関市や地元関係者が多数出席のなか開所式が行われ、事業所の開所を祝いました。

板取川地区の民有林直轄治山も名実ともに事業が本格化する運びとなり、地域の安定のためより一層復旧事業に務めていきたいと考えています。



看板を掛ける
坂本署長(右)
と山田主任

地球温暖化対策に貢献する 国有林看板を設置

「愛知所」地球温暖化防止対策については、グローバルな話題として多くの人が認識していると考えられますが、森林の整備を通じて地球温暖化防止に貢献している「国有林」について承知している人は少ないのではないのでしょうか。

京都議定書における温室効果ガスの削減目標六割という我が国の国際約束を達成するためには、その三・八割に相当する一三〇〇万炭素トンを森林吸収により確保する必要があるわけですが、今年、その第一約束期間がスタートしたところです。

当所では、この時期を促え、「森林は二酸化炭素の吸収・貯蔵源 地球温暖化対策に取り組む国有林」という看板を作成し、庁舎前に設置したところです。

看板の設置状況



第十回長野オリンピック記念 長野マラソンに参加して

四月二十日、第十回長野オリンピック記念長野マラソンが、長野市の長野運動公園から長野オリンピックスタジアムまでの四十二・一九五キロメートルのコースで七、四四人が出場しました。

当日は、くもり空のいくぶん肌寒い状態でのスタートとなりましたが、その後、天気も晴天となり気温も二十度近くまで上昇しました。

中部管理局からは六名が参加しました。

その中で、藤澤・原・奥村の三選手は第一回から十回連続の出場を達成しました。

出場参加選手は次の方達です。

- 管理局 奥村 豊
- 中信署 岩崎 剛
- 南信署 原 浩美
- 木曾署 藤澤 章人
- 志水 章彦
- 田中 拓馬



「国有林モニターを終えて」

「企画調整室」平成十九年度の国有林モニターから、一年間の任期を終えての感想が寄せられましたのでその一部を紹介します。

このほかにも、多くのモニターから、国有林野事業についてのご意見や、モニター制度に対するご提案などをいただきました。いただいたご意見等については、今後の国有林野の管理経営に生かしていくこととしています。

中村元彦様 (長野県諏訪市)

山と自然を守るといふ使命を持つ林野庁の活動はお金に換えることのできない大切な仕事だと思っておりますので、自然を愛し、使命感を持って生業に邁進していただきたいと考えます。

私はモニターを通して、森林運営を学ぼうとしましたが、その目的は達成できませんでした。でも、森林行政の難しさを肌で感じる事ができました。今後、植林を進めていくうえで参考にさせていただきます。

これからもモニターの応募があると思いますが、興味のある人だけではなく、裾野を広げるような活動を心がけていただければ、特に若い奥さんに興味を持っていただければ、必ずや子供にも広がるはず。

治山・植林というのは本当に地味な仕事

事ですが、環境が二十一世紀のテーマである以上、最も重要なものの一つのはずです。

今後の活動に期待しております。

以下省略

神津直子様 (長野県佐久市)

モニターをさせていただきました。沢山の貴重な体験ができました。森林についての施策や保全の考え方や方法など…。

またモニター会議に出席させていただきました。様々な方々の様々なお考えもお聴きできました。

いろいろな考え、思いも、全ては森林を「保全したい」、「大事にしたい」、「より生かしていきたい」という点では一致していると思えました。

いろいろ勉強できて大変有意義な国有林モニターでした。大変お世話になりました。ありがとうございました。

これからも森林についていろいろ学べましたことを地道に生かしていきたいと思えます。

「素材生産・造林請負事業の円滑な実施に向けて」

監督職員等への説明会を実施

「販売課・森林整備課」五月十三日及び十四日の両日、局管内の四会場において



監督職員等への説明会の様子

て、素材生産及び造林の請負事業の一般競争入札の実施に係る説明会を開催し、森林官等百七十名が出席しました。
 本説明会は、一般競争入札に即した契約約款や仕様書が新たに制定され、事業成績評定制度が導入されたことに伴い、監督業務等を円滑に実施する観点から開催したものです。
 説明会では、請負契約における一層の透明性、公平性の確保等制度のポイントや新たに導入した事業成績評定の具体的な実施方法を重点に説明が行われました。
 今後は新たな制度の下で、請負事業の円滑な実施に努めていくこととしています。

**「平成十九年度
 中部森林技術交流発表会
 優秀賞受賞課題」を紹介**

【指導普及課】平成二十年二月七～八日に開催された平成十九年度中部森林技術交流発表会において局長賞優秀賞を受賞された三課題の要旨を今回から、三回にわたり紹介します。

今回は、富山署です。

■湧水を活用したエネルギー

回収システム

富山署 常願寺川治山主任 吉田 一

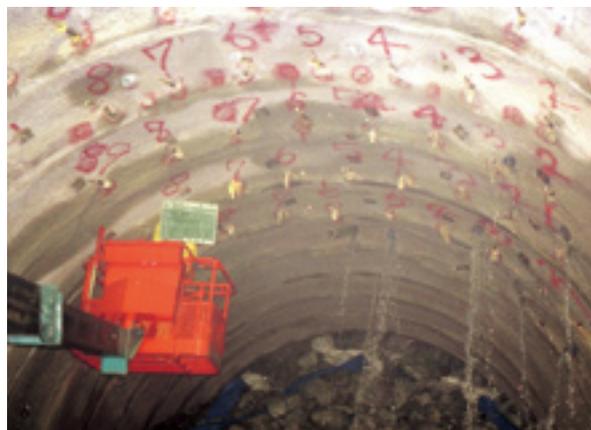
一 はじめに

常願寺川地区民有林直轄治山事業は、平成九年度に着手し約十年が経過しました。現在、当地区最下流のスゴ谷下流の復旧と上流域の復旧に向けて資材運搬路の開設を実施しています。

二 経 過

当地区では、着手当初からスゴ谷上流域の復旧を進めるために資材運搬の根幹となるトンネル工事を実施してきました。

このトンネル工は、長さ九八五m、車道幅員三m、縦断勾配八‰で、七〇m地点ではR二五〇のカーブがあり見通しが悪いこと、また、急勾配で幅員が狭く大型車とのすれ違いが困難なため、トンネル内における車両運行に対する安全確保の観点から、トンネル照明設備・信号設備及び、それらを稼働させる電力の供



毎分 1 立方m以上の湧水

給設備が必要となりました。

三 検 討

電力供給方法には、商用電力、発電機、太陽光発電、小規模水力発電等がありますが、山奥の豪雪地帯という現地の条件を踏まえつつ、コスト、安定供給、環境負荷度の三項目を総合評価した結果、平成十三年度トンネル掘削中に発生した湧水を活用し、小規模水力発電による「エネルギー回収システム」の導入が最有力候補に浮上しました。

トンネル内への設置可能性に関し、照明等に要する消費電力量、必要発電量をまかなう水量と落差、水力発電機の設置場所等について検討を加えたところ、諸条件をクリアできることが判明しました。

四 実行結果

現在、地球温暖化問題への世界的な取組が進む中、環境へ与える負荷が少なく資源制約の少ないクリーンな未利用エネ

ルギーの有効活用が求められていることもあり、水力発電の設置に踏み切り、平成十九年度に完成しました。

五 まとめ

今後は、これを活用し安全な資材輸送を行い、スゴ谷上流域の復旧を効率的に実施していく考えです。



照明により通行安全性が向上したトンネル内



トンネル内の待避所に設置した発電機と制御器



実験林・試験地等紹介

広葉樹間伐試験



〔東信署・指導普及課〕本試験は、薪炭林跡地にひろがる広葉樹林の扱いを検討するべく、若令広葉樹林分の密度管理基準をもとめるため、昭和五十八年度に設定したものであります。

昭和二十年～四十年代において、広葉樹林は国民の貴重な燃料であった薪炭の生産のため、国・民有林を問わず利用された森林でした。その跡地に生育する広葉樹林は、現在にあつては希少動植物が生息・生育する森林も多く、特に里山に依存する種も多くあります。

今後、このような広葉樹林の存在は益々、重要となつてきます。なお、この林分にも希少種のヤエガワカンバが生育しています。

○試験地の概要

- 屋敷入奥国有林 九七林班ろ小班
- 設定年度 昭和五十八年度
- 面積 一・六二畝
- 設定時林齢 三七年生
- 標高 一、二三〇メートル
- 土壌型 BD (m)

○試験地の設定と調査内容
試験地は薪炭林施業跡地に成林するナ

ラを主体とする、林齢約四十年生の高木層と低木層が分離した林分で、設定時平均胸高直径十センチ～二十センチ、平均樹高十～十五メートル程度。試験地に放置区、一〇〇〇本区、五〇〇本区を二反復で六区設定。

保残率を変えて間伐を実施し、林分及び単木の生長解析を行い、適正な密度、間伐率を求めるところとしました。

試験区内の立木について胸高直径一ミリ単位、樹高は十センチ単位に測定し五年毎に調査実施することとしました。

◎試験結果 (S58年とH18年の比較)

△現存本数

現存率は、放置区で五一～五五、五〇〇〇本区、一〇〇〇〇本区で五六、五七で放置区が低い、これは設定当時の密度が高いなかで枯損低減が進んだものと判断されます。

△直径

各試験区とも十九～二十三センチになり、生長率では五〇〇本区が高く、次いで一〇〇〇本区がつづき、対象区が最も低い。これは密度調整の率に合致した結果と判断されます。

△樹高

特に各試験区の違いは現れていません。

△胸高断面積合計

放置区で高く、五〇〇本区で低く、一〇〇〇本区では中庸を示しています。増加率は各試験区でバラついています。

試験区	樹種	本数 (本/ha)		直径 (cm)		樹高 (m)		胸高断面積 (m ² /ha)	
		H18 現在	推移	H18 現在	推移	H18 現在	推移	H18 現在	推移
500本区C	ミズナラ他6種	500	57%	22.1	171%	16.4	125%	21.2	125%
500本区D	ミズナラ他9種	650	56%	20.6	189%	16.7	136%	24.3	136%
1000本区B	ミズナラ他10種	700	57%	22.3	160%	16.5	127%	30.9	127%
1000本区E	ミズナラ他10種	850	57%	18.7	168%	16.5	134%	26.4	134%
放置区A	ミズナラ他7種	830	55%	22.5	157%	17.6	133%	35.3	133%
放置区F	ミズナラ他9種	870	51%	21.0	156%	17.8	127%	33.3	127%

各試験区におけるS58年からH18年の推移



まとめ
設定から二十三年が経過した時点の調査であるが、現存率は放置区で低く枯損低減が進んでいるものと判断され、樹種別ではクリ、ナラ、カンバの順で生存が高くなる傾向が判明しています。直径の生長は密度の低い五〇〇〇本区が高く、予想された展開となっております。現在、成立本数は五〇〇～八七〇本/畝で疎開は必要ないこと、直径が二十センチを超えた程度であることから、今後も五年毎の調査を継続していくこととしています。

1,000 本区 E

所在地 長野県南佐久郡佐久穂町
○報告書は「試験調査報告」平成十八年度 中部森林管理局 八九頁



奥裾花溪谷

長野市鬼無里奥裾花、ここは地形的にも、植物的にも、そして伝説においても特徴のある地域です。

☆地形

五五〇万年前後の新生代第三紀の地層が大陸からの圧力により押し曲げられ、お椀の底状に歪曲した「向斜構造」、隆起した頂上部が地層の堅さによりノコギリの歯状に浸蝕された「ケスタ地形」など地質学的に興味深いものがあります。

裾花川支流濁川の国有林では、平成九年山地崩壊が発生して川をせき止め、自然ダム湖が形成されました。下流域に被害が及ぶことが懸念されたことから、国による対策工事が行われ、安全と景観が保たれています。

☆植物

国有林に隣接するブナ林の中に、県と旧鬼無里村が明治百年記念事業として開園した奥裾花自然園があります。五月上

木道脇に広がる清楚なミズバショウ



旬の今池湿原には、一目八十一万株といわれるミズバショウが咲き観光客の目を楽しませてくれます。

☆伝説

平安時代、京の都を追われた紅葉（もみぢ）という美しい腰元が、都恋しさに近くの集落（むら）を東京、西京（にしきやう）などと呼び偲ぶうち、その情念が鬼と化し、ついには悪事を働き、やがては京を狙っているとの噂から、追っ手に征伐されたと言われています。

以来、水無瀬（みなせ）の里と呼ばれるようになったこの地が、鬼無里と言われるようになったと伝えられています。

◆アクセス方法

マイカー

上信越自動車道長野インターから国道四〇六号線を経由して奥裾花自然園観光センターまで約二時間三〇分

JR及び公共交通機関

長野駅から直行バスで、奥裾花自然園観光センターまで約二時間



柔らかい地層が浸食されたケスタ地形



平維茂に征伐された鬼女紅葉（開山祭より）

行事・会議等の予定

◎名古屋シティ・フォレスト事業

6月14・20・24日

木曾・岐阜・富山署管内

◎森林ふれあい講座

6月14日 愛知所管内

◎平成二十年度永年勤続職員表彰式

6月24日 長野市

◎国有林野観光施設協議会総会

6月25日 長野市